

入浴動作に支援を必要とするご利用者の安全確保、支援者の身体的負担軽減を図るため
入浴用リフト付きシャワーキャリーを導入する。

社会福祉法人 菊愛会
地域生活支援事業所 あおぞら

課題

- ①身体介助が特に必要なご利用者の入浴支援は、常に2名体制で対応する必要があった。
- ②浴槽への出入り時に、支援者がバランスを崩して転倒しそうになる場面が散見された。
- ③支援者の足腰などに身体的負担がかかっていた。

ロボット
導入

成果

- ① **業務の質の向上**
 - ・リフト付きシャワーキャリーの導入により、ご利用者・支援者双方にとって負担の少ない姿勢（ご利用者はシャワーキャリーに座ったまま、支援者は立位のままで浴槽との移動が可能）を確保できるようになった。これにより、一連の入浴支援がより安全かつ適切に実施できる環境が整備された。
 - ・ご利用者が負担の少ない姿勢で入浴できるようになったことで、湯船に浸かる時間が延び、よりリラックスした入浴が可能となった。
- ② **業務の効率化（量的な改善）**
 - ・これまで2名体制で行っていた一連の入浴支援が、1名で対応可能となり、支援体制の効率化が図られた。これにより、もう1名の支援者が他のご利用者支援にあたることとなった。
 - ・入浴支援中のヒヤリハット事例が発生しなくなり、安全面においても大きな改善が見られた。



入浴用リフト



業務効率化のステップ

①導入前の検討状況

これまで、車椅子ご利用者や立位保持が困難なご利用者の入浴支援は、2名以上の支援者による介助が必要であり、支援者の身体的負担が大きい状況でした。また、ご利用者にとっても移乗時の恐怖感や不安があり、安全面の課題も指摘されていました。そのため、支援者負担の軽減とご利用者の安全・安心な入浴支援を目的に、リフト付きシャワーキャリーの導入を検討しました。

②導入内容（詳細）導入した機器は、電動リフト機能付きのシャワーキャリーで、車椅子等からチェアへ移乗後、そのまま浴室まで移動が可能な構造です。昇降機能により、浴槽への移乗もスムーズに行える設計で、リモコン操作により高さ調整が可能です。リクライニング機能など、複数のご利用者に対応できるモデルを選定しました。

③導入における問題点の洗い出し・それに伴う改善など

（1）導入当初の課題

1、職員が機器の操作に慣れるまで時間がかかった。

（2）改善策

1、操作講習を定期的実施し、操作方法と安全管理の徹底を図った。 2、ご利用者には事前に説明と試乗体験を行い、安心して使ってもらえるよう配慮した。

④その他

1、導入後は、支援者の腰痛等の身体的負担が軽減され、介助に対する心理的ハードルも下がった。 2、今後は、他ユニットへの導入や、機器の定期点検・メンテナンス体制の整備を進めていく予定。

職員の声など

【良かった点】

（1）身体的負担の軽減

1、ご利用者の移乗や介助時の腰痛リスクが減り、支援者の身体的負担が大幅に軽減された。 2、1名での対応が可能な場面も増え、人員配置の柔軟性が高まった。

（2）安全性の向上

1、ご利用者のすり落ちや転倒のリスクが少なくなり、安全面での安心感が増した。 2、安定した姿勢でのシャワー介助が可能になったため、ご利用者の不安も軽減された。

（3）ご利用者の尊厳を守る

1、スムーズな移乗ができることで、羞恥心や不快感を軽減しやすくなった。 2、快適な姿勢でシャワー等を受けられるため、表情も穏やかになるご利用者が多い。

【悪かった点】

（1）操作に慣れるまでに時間がかかる

1、新しい機器への慣れが必要で、特に機械が苦手な職員には戸惑いも見られた。 2、細かい調整（高さ、角度）に手間取るケースもある。

【今後の課題・その他】

（1）継続的な研修と操作訓練の実施

1、新任職員にも安心して使ってもらうためのマニュアル整備と定期的な研修が必要。

（2）機器の適正配置と動線の見直し

1、浴室の構造に応じた導線の見直しや、他の設備との干渉を減らす工夫が求められる。

（3）複数台導入の検討

1、ご利用者数や支援者数に応じて、複数台導入すればさらに効率化が進むが、コスト面とのバランスも課題。

